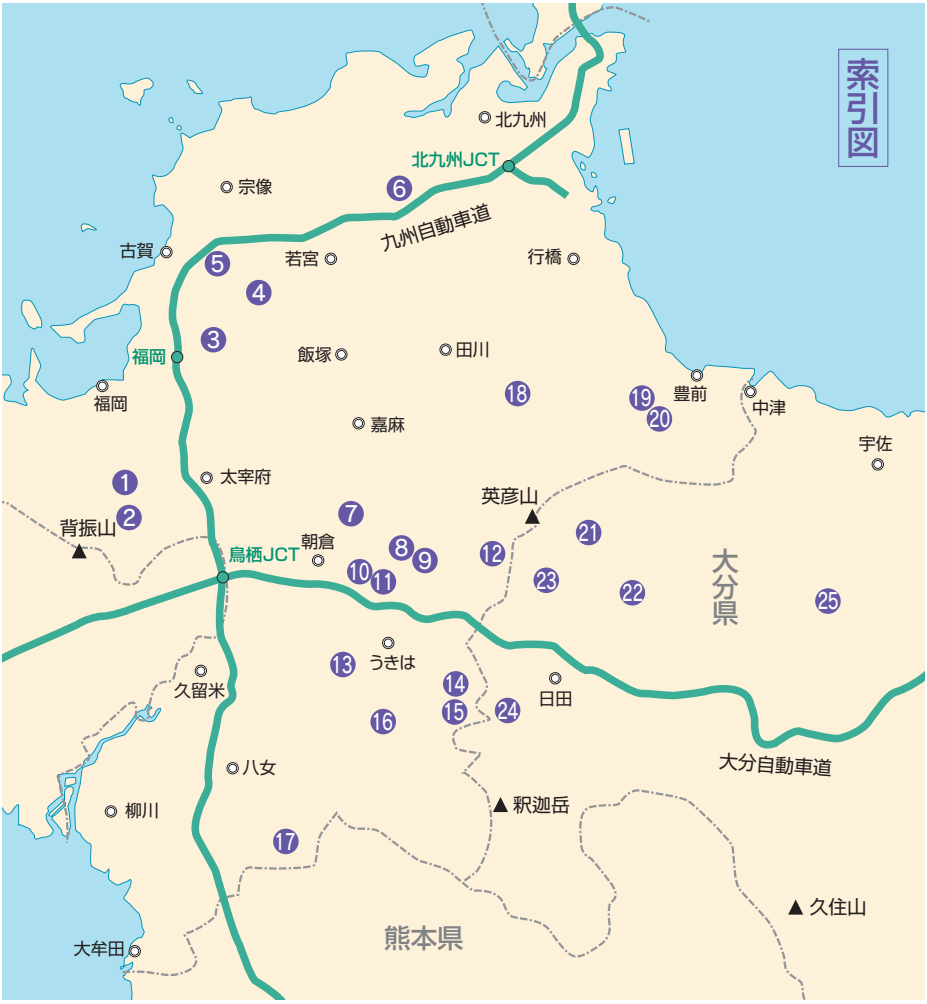
ホタル紀行

【福岡近郊編】

石井幹夫
Mikio Ishii

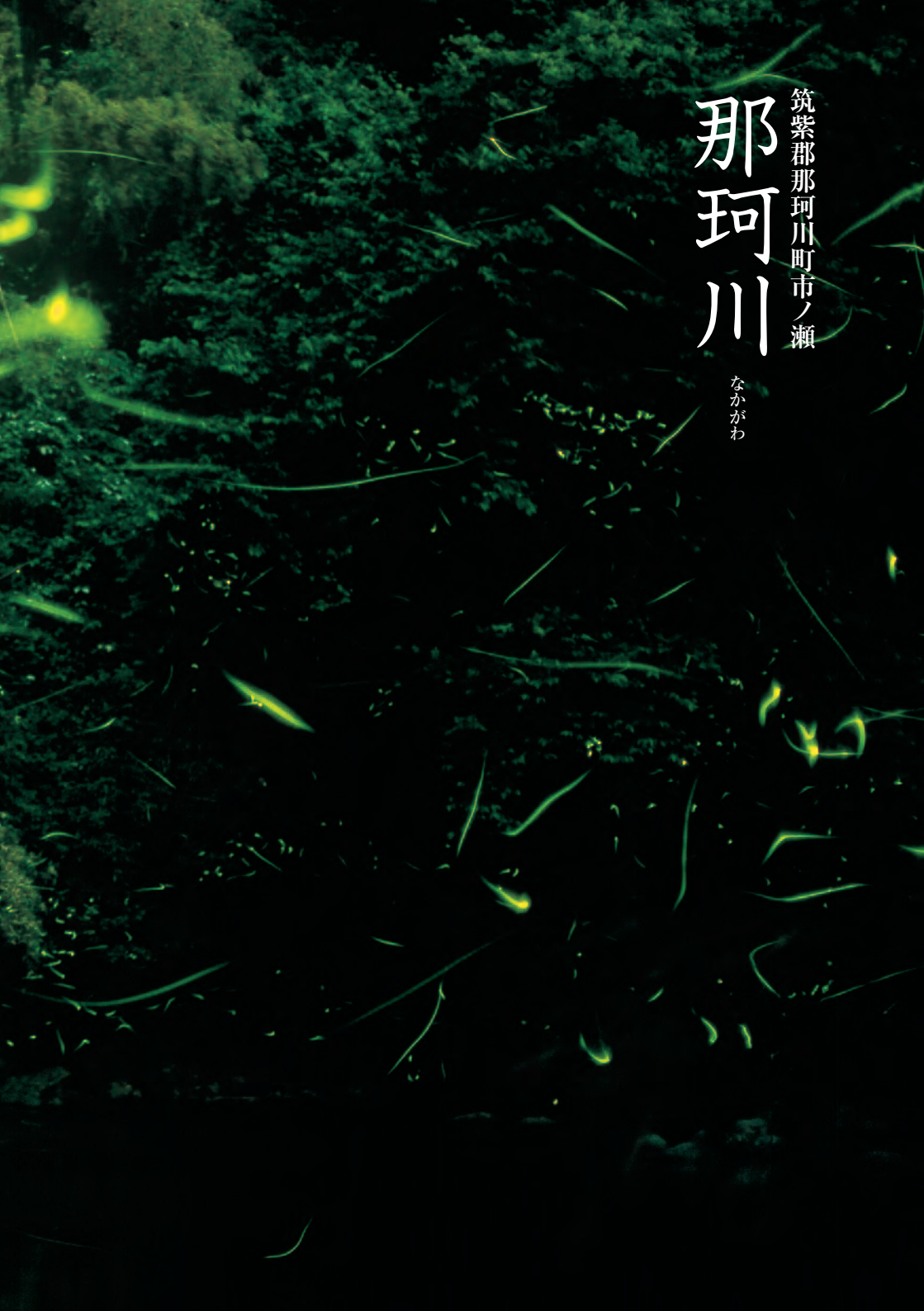
海鳥社


索引図
北九州
北九州JCT
宗像
九州自動車道
古賀
若宮
行橋
福岡
飯塚
田川
福岡
豊前
中津
嘉麻
宇佐
太宰府
英彦山
背振山
朝倉
鳥栖JCT
大分県
うきは
久留米
日田
大分自動車道
八女
釈迦岳
柳川
久住山
熊本県
大牟田
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25

❶ 裂田溝　筑紫郡那珂川町山田　6
❷ 那珂川　筑紫郡那珂川町市ノ瀬　10
❸ 新建川　糟屋郡久山町久原　14
❹ 犬鳴川　宮若市脇田　18
❺ 大根川　古賀市薦野　22
❻ 黒川　北九州市八幡西区上香月　24
❼ 野鳥川　朝倉市秋月　28
❽ 佐田川　朝倉市佐田　32
❾ 黒川　朝倉市高木　36
❿ アジサイロード　朝倉市三奈木　40
⓫ 広瀬地区の水路　朝倉市三奈木　42
⓬ 宝珠山川　朝倉郡東峰村宝珠山　46
⓭ 東本川　久留米市田主丸町益生田　48
⓮ 新川　うきは市浮羽町新川　54
⓯ 葛籠川　うきは市浮羽町新川　58
⓰ 星野川　八女市星野村　62
⓱ 辺春川　八女市立花町上辺春　66
⓲ 十津川　田川郡赤村赤　68
⓳ 角田川　豊前市畑　72
⓴ 中川　豊前市川内　74
㉑ 山国川　中津市山国町槻木　78
㉒ 長尾野川　中津市山国町藤野木　82
㉓ 小野川　日田市源栄町・鈴連町　84
㉔ 内河野川　日田市小山町　88
㉕ 野地川　宇佐市院内町温見　90

［コラム］
ホタルの生活史　26
ホタルはなぜ光るんだろう　52
ホタル観賞 五つのポイント　76
私のホタル撮影　92

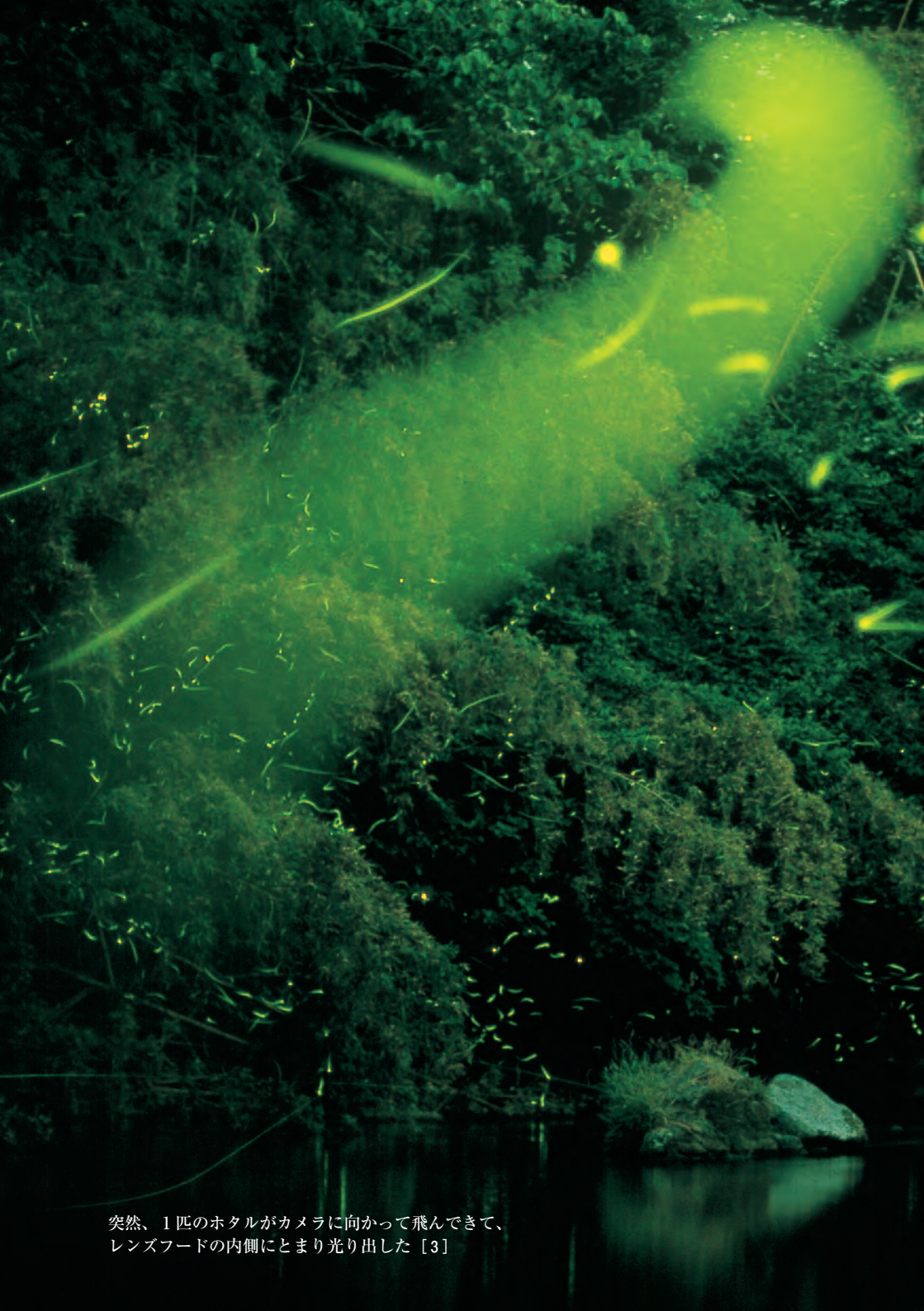
あとがき　94



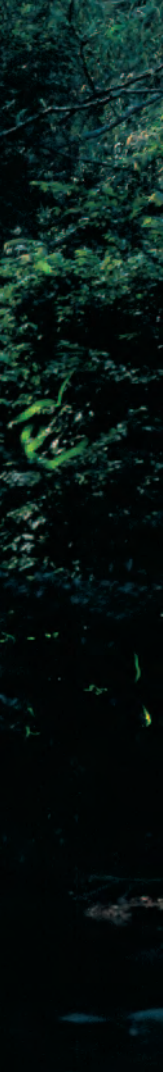
筑紫郡那珂川町市ノ瀬

那珂川

なかがわ



突然、１匹のホタルがカメラに向かって飛んできて、
レンズフードの内側にとまり光り出した［3］



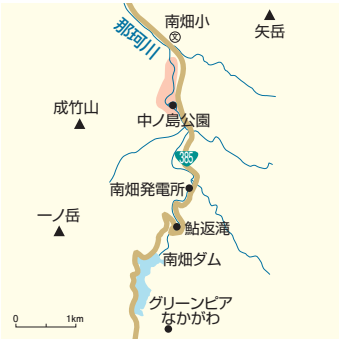
那珂川上流の中ノ島公園は、福岡都市圏に近いこともあり、夏になると水遊びの家族連れで大いに賑わう。公園内には物産館があり、地元でとれた新鮮な野菜が販売されている。公園内の橋を渡ったところにある中ノ島は明かりの影響が少なく、高く舞い上がるホタルを見ることができる。

公園以外でも那珂川沿いには数多くのホタルスポットがある。下流域では六月上旬より見ることができ、六月中旬にかけて徐々に上流へと発生区域が移っていく。また、近くの南畑小学校では一年を通してホタルの観察や水質調査を実施しており、自然環境を大切に見守っている。

撮影中、目の前を飛んでいたホタルが、突然カメラに向かってきた。そしてレンズフードの内側にとまり、光り始めた。後日現像してみると、ホタルの軌跡が〝天の川〟のように降り注いでいた(写真3)。この写真は福岡県の美術展で賞をいただくこととなり、ホタルからのプレゼントだと今でも信じている。

左：中ノ島公園で夕暮れを待つ人々
下：葉陰で休むホタル

中央下の光の筋は、命尽きて川へと帰っていくホタル［4］



発生時期● 6月上旬ー中旬
アクセス● 国道385号線を那珂川町へ／西鉄バス
・市の瀬バス停すぐ、中ノ島公園へ
問合せ先● 那珂川町産業課　☎092ー953ー2211

ホタル観賞五つのポイント

1 蒸し暑くて風のない日がお勧め！

ホタルは蒸し暑い日が大好きです。午前中に雨が降った日の夜や、雨が降る日の前夜など、湿度の高い日に多く飛びます。また、風が強いとホタルは飛びません。無風、あるいは風の弱い日がお勧めです。

2 目的地には早めに行こう！

明るいうちに目的地に行って、地元の人に声をかけてみましょう。車の駐車場所や、最新の発生情報を聞いておくと、より確実に楽しく観賞できます。川のせせらぎ、カジカガエルの鳴き声など、ホタルの棲む環境も味わうことができるので、お子様連れには特にお勧めです。

3 〝一番ボタル〟を見よう！

早く出かけた人の特典。夕焼けの茜空が徐々に青味を増してくる頃、葉っぱの裏に隠れていたホタルが一つ二つと光り出します。その数は徐々に増えてきて、そのうち一匹がふわっと舞い始めます。一番ボタルです。それが合図であるかのように、次々と飛び立ちます。ホタルのショーの開幕です。この瞬間には、いつも感動します。

4 明かりはホタルに向けないようにしよう！

ホタルは雄と雌のコミュニケーションのために光っているといわれています。明かりを当てると雄と雌の連絡がとれなくなるため、光ることをやめてしまいます。懐中電灯、携帯電話などの明かりは、移動する時だけ、足もとのみを照らすようにしましょう。

5 乱舞のピークは八―九時頃

夜八時前後に一番ボタルが飛び始めると、他のホタルも次々に飛び立ちます。乱舞が始まってしばらくすると、それぞれ単独で光っていたホタルたちが、急に同じ調子で光り出します。いよいよ雄たちが繰り広げる集団同時明滅の始まりです。この時間帯は見逃せません。じっくりと観賞しましょう。夜九時を過ぎると徐々に数が減ってきます。

あとがき

ふるさとのすぐ近くに幅三〇メートルほどの巨瀬川がある。その川は近所の子供たち、すなわち僕の遊び場であった。水泳、魚とり、石投げにと……。魚とりは、夏はもちろんのこと、冬でもゴム草履をはいて、手づかみで魚をとった。冬は魚の動きが鈍く、藻の中にじっとしていることが多い。藻の中にそっと手を入れて、ハヤやフナ、カマツカ、時にはナマズも手づかみしていた。石投げは、川原で平たい石を見つけては川面に投げ、飛び跳ねていく回数を競うのである。そして、夏にはホタル狩り。祖父に作ってもらったホタル籠と、ほうき草を持って出かけるのである。ほうき草は枝が縦に何十本にも分かれていて、昔は土間を掃くほうき用として軒先などに植えられていた。そのほうき草を飛んでいるホタルに近づけると、すぐに枝にとまり、簡単にとらえることができるという優れものであった。

当時、ホタル狩りの注意点として両親に言われていたことは、「草むらにとまっているホタルはとるな」「二匹が近くで光っているホタルはとるな」。これらはヘビにかまれるのを防ぐためである。子供の頃にヘビに遭遇した記憶はないけれど、撮影中に一度だけ危ない目に遭った。ヘイケボタルが田の畦にいたので、手を伸ばして捕獲しようとした時だった。「ジージー」と、虫の声とは明らかに違う、低く鈍い音がする。ホタルに近づくと、その音は大きくなった。おかしいと思い手を引っ込め立ち上がった時、目の前にヘビ

がいたことに気がついた。その後ヘビは草むらへと移動して、音は聞こえなくなった。そのことを友人に話したところ、それはマムシだったのではないかと教えられた。目が光っていたかどうか定かではないが、子供の頃の注意を思い知らされた。

また、ホタルを観察するようになって、別の意味がこめられていることに気がついた。僕たちが日頃観賞しているのは、ほとんどが雄である。雄たちが優雅に舞っているのである。雌はほとんど飛ばずに草むらにじっとして、雄とは異なる光り方をしている。したがって、とまっているホタルは雌の可能性が高い。「草むらにとまっているホタルはとるな」という教えは、ヘビにかまれないように注意を促すことはもちろん、種を絶やさないようにという、大きな目的があったことを知った。

飛んでいるホタルに手を差し伸べてみよう。ホタルがとまったら、そっと鼻を近づけてみる。すると、独特の臭いがする。この臭いは「食べたらまずいぞ」というメッセージだそうだ。子供たちにとっては、五感で感じることが、将来自然への愛着につながっていくものと信じている。

最後に、ずっと僕のわがままを聞いてくれている妻や子供たちに心から感謝したい。それから、いろいろとアドバイスをしてくださった海鳥社の方々に、心よりお礼を申し上げます。

平成二十三年四月

石井幹夫

石井幹夫（いしい・みきお）
1949年、福岡県田主丸町生まれ。
2001年、福岡県展入選。2002年、福岡県展入賞、ホタル写真展「幻想の星」（ニコンギャラリー）。2003年、福岡県展入賞、福岡県美術協会会員、福岡市美術連盟会員。2007年、大分県日田市小野へ移住。2009年、小野公民館落成記念写真展「小野谷の四季」、西日本写真協会会員。

ホタル紀行（きこう）　福岡近郊編（ふくおかきんこうへん）

■

2011年６月１日　第１刷発行

■

著　者　石井幹夫
発行者　西　俊明
発行所　有限会社海鳥社
〒810－0072　福岡市中央区長浜３丁目１番16号
電話092(771)0132　FAX092(771)2546
印刷・製本　有限会社九州コンピュータ印刷
ISBN978-4-87415-820-3
http://www.kaichosha-f.co.jp
［定価は表紙カバーに表示］